

# 平成29年度 学校自己評価システムシート ( 県立 川越工業高等学校 定時制の課程)

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる能力を育成する。
--------	-------------------------

重点目標	1 基礎学力の定着をはかる。(最重点目標) 2 地域社会や家庭との連携を推進する。 3 進路実現を目指す。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標					年度評価(1月11日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<b>【現状】</b> ・授業に集中させるため、学習環境を整える指導を行っている。 ・生徒の学習意欲を引き出すため、教科横断的に授業の工夫がされている。 <b>【課題】</b> ・学習意欲が基礎学力の定着へとつながるような方策を講じる必要がある。	○学習環境を整備するための工夫・改善  ○基礎学力の定着	①教職員で校内巡回指導を行い、規律ある授業を維持する。 ②教職員で授業開始時に、携帯電話をしまわせる指導を行う。 ③生徒に対する学習に関するアンケートを行い、生徒の理解度を把握する。 ④他教科、学習サポーター等と連携し、授業に対する協力を行う。	①校内巡回指導を含め、規律ある授業を維持することができたか。 ②授業中に携帯電話を触る生徒がいなくなったか。 ③アンケートの結果を踏まえ、生徒の学習意欲、理解度の向上はみられたか。 ④教職員、学習サポーター等と協力し、相乗効果のある授業が実施できたか。	①継続して巡回指導等を行っていることもあり、一定の授業規律を確保できている。 ②ほとんどの生徒は、授業に集中できているが、一部の生徒が隠れて触っている現状がある。 ③生徒アンケートでは、約80%の生徒が、授業がわかりやすいと回答し、昨年と比べ大幅に向上した。 ④教職員間の情報共有を密にし、また学習サポーターと協力強化し、生徒の理解度の向上がみられた。	A
2	<b>【現状】</b> ・学校評価懇話会など校外の方々との意見交換の場を充実させている。 <b>【課題】</b> ・保護者の行事参加のため、学校行事の情報発信に努める。	○開かれた学校づくり  ○情報発信の時期・方法などの工夫	①学校評価懇話会での活発な意見交換や助言を活用する。 ②外部の専門機関を積極的に活用する。 ③学校行事の案内を早期に発信し、保護者の参加を促す。 ④ホームページの内容の充実及び定期更新を行う。	①学校評価懇話会での意見交換を通して、本校の取組をアピールすることができたか。 ②外部の専門機関との連携強化ができたか。 ③保護者の行事への参加者が増加したか。 ④本校の取組をホームページを通して、外部へ発信することができたか。	①学校評価懇話会では本校の取組をアピールし、意見交換をすることができた。 ②SSW、特別支援学校等の外部講師を活用し、多様な生徒の特性の理解に努めることができた。 ③PTA総会、体育祭、工業祭などを実施し、文書等を通し保護者の学校への積極的な参加を促した。 ④ホームページの更新を積極的に行い、外部への情報発信に努めた。	A
3	<b>【現状】</b> ・教職員間、生徒教職員間でコミュニケーションを密にしている。 ・個に応じた進路指導をしている。 <b>【課題】</b> ・規則正しい学校生活を送らせ、進路実現へとつながるように指導していく必要がある。	○基本的な生活習慣の確立  ○生徒の自己実現に向けた進路指導	①登下校時に教職員が生徒への声かけ運動を継続して実施する。 ②各年次や生徒指導部を中心として、情報の共有をはかり、生徒理解に努める。 ③各種進路説明会への積極的参加、インターンバイトの活用、面接・履歴書指導等、早めの進路指導を行う。	①前年度と比較して、出席率が向上したか。 ②生徒理解を深めることができたか。 ③生徒一人ひとりに応じた進路指導を実施することができたか。	①全職員による声かけ運動を実施し、高い出席率(今年度は88.1%)を維持することができた。 ②教員間で生徒の特性や指導方法等の情報を共有し、生徒理解を深めることができた。 ③全学年への進路説明会の実施、外部講師や就職支援アドバイザー等を活用して進路講話、就職相談、面接指導を実施し、就職希望者の約85%が内定をいただいた。	B

学校関係者評価	
実施日	平成30年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>○アンケート結果によると学習環境が改善されている様子がうかがわれる。特に全教室でのプロジェクター設置やタブレットを使用による授業が活発に行われ、生徒が前を向いて積極的に授業に取り組んでいる。</p> <p>○授業内容についても若手教員を牽引役として改善が進んでいる。それにより生徒の基礎学力の全体的な底上げも実感された。継続的な改善にこれからも取り組んでほしい。</p> <p>○家庭環境も含めた生徒の教育環境の整備に学校組織として取り組めた。そのため担当部署やSSWを起点として外部機関との連携が密接に行った。</p> <p>○定時制の特性を踏まえた上でホームページ等を有効活用して情報発信に努めた。今後もさらなる充実を図り、アピールすることを望みたい。</p> <p>○出席率の向上が見られる。生徒へのきめ細かな指導が実を結んできているのではないかと。さらなる向上を目指してほしい。</p> <p>○生徒指導件数が年々減少してきた。そのため学校全体が落ち着いた雰囲気であり、生徒も学習に集中することができている。</p> <p>○就職活動においては求人件数が伸び悩み苦戦している。今後は自立支援事業等、様々な方向性を模索して生徒の希望進路の実現へ取り組んでほしい。</p>	

